



十月二十八日 理事長に就任いたしました早川明です。どうぞよろしくお願い致します。

故廣本肇理事長と私の人生の出会いには、昭和五十一年の夏 ヒグラシの鳴く静岡御殿場市での職員採用面接で訪れた富士学園でした。



かねて療養中の廣本肇が、十月三日死去いたしました。これに伴い評議員会、理事会の議を経て、早川明が理事長に就任いたしましたので、お知らせいたします。

理事長交代のお知らせ



社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
TEL (042) 735-2220
FAX (042) 736-6374
HP:tsurukawa-gakuen.com

当時の廣本理事長(園長)は四十年代前半で、精悍、猛進、全身からオーラを発していました。私の書いた本だと言いつつ「太陽に叩く」をくださいました。志を同じくする高校時代の友達と、全国を巡り桐友学園を設立した人とは思っても及びませんでした。

あの日から四十年 直接ご指導を頂いたのは短い期間で進む道は分かれてしまいましたが、大事な仕事上でのご指導を節々で賜ったことをしっかりと覚えております。

飯田橋にある東京都社会福祉協議会の部会会議の予算委員会、都外委員会ではよくお会いすることがあり、教えを受けました。東京都社会福祉協議会、日本知的障害者福祉協会(旧愛護協会)を舞台に活躍されていきましたので、交友関係は広く深く東京都福祉局職員、部会及び全国の施設長など多種多彩でした。

自ら活動し、範を示し、頑張る人を励ますとともに、悩んでいる人、苦しんでいる人の相談に乗り、手を差し伸べる思いやりのある人柄でした。わたくしもそれにより助けられた一人になるわけです。

「子供たちが生涯にわたって、安心して生活できるようにしたい」という親、家族の願いで開設したつるかわ学園(旧かねこ学園)に廣本前理事長は昭和五十七年五月一日 杉山一人施設長の後任として着任しました。

保護者の念願であった児童施設から成人施設への変換を平成六年なしとげ(三十五周年記念式典及び成人施設開所式には来させていただきました)、翌年には東京都町田通勤寮の受託運営し、平成二十年グループホーム援助センターを法人独自事業として開設し、グループホーム、ケアホームの運営の安定化を進められたことは当時としては特筆すべき事業でした。平成二十一年町田市障害者就労生活支援センターりんくを受託運営、つるかわ学園職業準備支援センター、相談支援センター(こころ)など地域に根差した事業を展開するに及んでいます。

廣本前理事長の三十五年間は一つの施設運営に留まらず、必要とされる障害者福祉の時代に沿った、又時代を先取りしつつつるかわ学園の発展に尽力した享年八十六歳生涯現役の人生でした。本人も納得した人生ではなかったでしょうか。

廣本前理事長の後任として歴史のあるつるかわ学園の理事長として就任するにあたり、自分の力量で大丈夫かと自問自答する日々ですが、月岡亮施設長を始め、植村義秀、丸山文弘、三階広明、大矢浩之各理事の全面的なご協力をいただけた

ので胸を撫でおろしているところ

です。

現在、福祉業界の人材不足は甚だしく、現場の職員へ大きな肉体的負担を与えているとの報告を受けています。法人内の課題として、つるかわ学園利用者の高齢による障害の変化、体力的能力の低下などへの対応が急がれている。町田通勤寮では日額現員払い制度による経営の不安定さ。フクシアは若い利用者との増加と他方では高齢の利用者対策との上手な組み合わせが求められている。その他には利用者の職場定着支援の取り組み、少ない職員数での業務の遂行の難しさ等など課題があると伺っているところ

です。しかし、課題が分かるということは解決の道が視えたとも言えます。

つるかわ学園五十周年記念誌のページを開くと初めに一枚の写真「畑と森に包まれた木造平屋建てかねこ学園」があります。ご家族親御さん、職員、ボランティアの皆さん、地域の皆さんに支えられて今日があり、「地域と共に暮らし、地域と共に生き、ここを愛の拠点にします」の理念が生まれたところなのだと実感しました。

廣本前理事長の言葉である「私の子をつるかわ学園にゆだねてよかったと思える人たちが、少しでも多くなっているように」役員、職員と一緒に頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

感

謝

廣本肇氏を偲んで

昭和三十三年十一月
昭和三十五年十一月

志を同じくする仲間と「桐友教育研究所(重度精神薄弱児通所施設)」を開設
特殊児童援護協会設立(昭和三十八年に財団法人の認可)
学習塾の経営で資金造成をし、桐友学園の建設に着手

昭和三十七年 三月

心身障害者通勤センター(原町成年寮) 指導部長

昭和三十九年 四月

全国における「通勤寮」「生活寮(グループホーム)」の創始的役割を实践
精神薄弱児施設 桐友学園 初代園長就任/専務理事

昭和四十六年 八月

桐友学園 園長退任

昭和四十七年 九月

社会福祉法人 武蔵野会 富士学園 施設長就任(現在のさくら学園)

昭和五十一年 九月

社会福祉法人 武蔵野会 東京苑 施設長就任(現在のさくら学園)

昭和五十七年 五月

社会福祉法人 つるかわ学園 つるかわ学園 施設長就任

平成八年 一月

社会福祉法人 つるかわ学園 理事長に就任



下の絵は、廣本氏の弟さんが書かれたもので、廣本氏が生前よりこの絵を遺影の代わりとして欲しいとの、遺志にもとづき通夜・告別式の遺影としても使用されました。



- 昭和五十一年 九月 静岡県御殿場市社会福祉協議会より福祉の貢献により表彰(市長表彰)
- 昭和五十三年 十月 日本精神薄弱者愛護協会より勤続二十年表彰(大会会長表彰)
- 昭和五十八年十一月 東京都社会福祉大会にて福祉への貢献により表彰(大会会長表彰)
- 昭和五十九年 十月 東京都社会福祉大会にて福祉への貢献により感謝状(東京都知事表彰)
- 昭和六十二年十一月 全国社会福祉大会にて福祉への貢献により表彰(大会会長表彰)
- 平成七年 十月 愛護福祉賞 受賞(日本精神薄弱者愛護協会)
- 平成九年 十月 東京都福祉功労者賞 受賞(東京都知事表彰)
- 平成十年 十一月 福祉功労賞 受賞(厚生労働大臣表彰)
- 平成十六年 十一月 瑞寶雙光章 受章(内閣総理大臣表彰)



【障害者の権利擁護、虐待防止研修】

芹澤 政人

法人内の研修として、弁護士の関哉直人氏をお招きし、七月十九日につるかわ学園において虐待防止、権利擁護研修を開催しました。法人全体で五十一名の職員が参加しました。

「障害者に対する虐待が障害者の尊厳を害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとつて障害者に対する虐待を防止することが極めて重大であること」の障害者虐待防止法の目的に触れ、障害者の権利利益の擁護に資することが目的であることの講話があり、法人全体で取り組んでいくためには権利擁護の支援が重要であることを再認識しました。

講義後は、関哉弁護士が準備してくれた事例検討を中心にグループ討議を行いました。普段の支援では、判断に悩む場面が多くあり、その小さな出来事は、「不適切な支援」、「グレーゾーン」と表現されることもありま

かどうかの判断は利用者自身になりません。職員ひとり一人色々な意見がありますが大切なのは個人の問題としての捉えではなく、法人としての問題として捉え、共有することです。一番大切なことは、小さな出来事とらえる「ハート」であり、個々の職員がその「ハート」を持っているか、共有できているか。「ハート」を共有するには、職員とよく話すことが重要であり、風通しの良い環境づくりが重要です。

法人内においては、苦情対応、虐待防止委員会を設置してあります。苦情に対しての対応は、権利擁護の視点においても虐待防止対策の一つと言えます。「虐待を未然に防ぐ」ためには、法人内の権利擁護システムを定期的に評価していく必要があります。

障害者虐待の発生する要因としては、人権意識の欠如、障害特性や専門的知識の不足、支援技術の未熟等が挙げられています。そのためには、こういった研修の他にも人材育成が継続的に実践できるように、今後も取り組んでいきます。

各事業所の活動の様子

【つるかわ学園】
ダイエーユニオン活動
つるかわ学園 支援スタッフ
奥石大輔

二〇一八年七月十一日(木)今年も二十六名のダイエーボランティアの方々が来園してくださいました。一階交流室で顔合わせとなり、利用者の皆さんは大喜びでした。午前の活動は、ボランティアさんによるピアノ演奏。ピアノの音と歌声から、何人かの利用者さんがピアノの前に近寄り、一緒に歌を唄われ、盛り上がりしました。昼食は、ボランティアの方が用意して下さったお弁当を、食堂と一階交流室の二カ所に別れ、ボランティアさんと一緒に食事



を楽しみました。午後は、各フロアに別れて、紙皿に絵を描く作業と一緒にを行いました。また、食堂では利用者さんが楽しみにされていたパン取り競争を行い、笛の合図で全速力で走る姿もみられ、楽しまれていました。手にしたパンやコーヒを美味しそうに召し上がり、とても満足そうでした。次に、各フロアで作業した紙皿を皆の前で披露すると、利用者さんは、自分のものがあると指を差して嬉しそうに笑っていました。最後に、閉会式を行い、全員で記念撮影をしました。利用者さんもボランティアさんと一緒に過ごせて大いに楽しそうに過ごされていきました。とても有意義な時間を過ごさせていただきました。また来年もよろしくお願い致します。



【町田通勤寮】
ボウリング大会・納涼会
 支援員 新井政暁

七月二十一日、ボウリング大会・納涼会（ピザ・パスタ食べ放題）が行われました。



ボウリングの会場となったのは町田のラウンドワン。職員よりも利用者さんの方が詳しく、行き慣れた場所のひとつでもあります。チーム分けのあやで、普段はあまり接点のない利用者さん同士が同じチームとなることもありました。しかしボウリングがあまり得意ではない利用者さんに、普段はほぼ交流のない熟練の利用者さんが率先して手ほどきしている光景が見られるなど、終始あたたかい雰囲気で大会は進みました。目標点数や楽しみ方は異なれど、利用者さんたちはみな、楽しく和気藹々と大会を過ごすことが出来た

ように思います。

ボウリングの後は、徒歩で移動して町田のイタリアン食べ放題のお店へ移動。職員を入れて各テーブル四名前後で食事をしましたが、ボウリング大会同様、普段あまり交流のない利用者さん同士が会話をするきっかけになったように思います。注文をしたりピザを取り分けてくれる方、食べることに集中する方、食事よりも会話に夢中な方、それぞれの個性が出て、良かったと思います。

普段は一人で食事をすることが多い利用者さんにも笑顔が見られ、決して無理をする必要はないと思いますが、誰かと食事を共にすることの良さを、今後の人生を通して少しずつ感じていってほしいと、その笑顔を見て思いました。

【地域生活援助センター
フクシア】
町内会防災訓練

九月十五日、南成瀬小学校と町内会合同の地域防災訓練に通勤寮利用者と一緒に参加しました。（職員を含めて総勢二十三名の参加でした。）

あいにくの雨でしたが、各ユニットから一次避難場所の南成瀬中央公園へ移動し、点呼の後、通勤寮利用者と一緒に避難所となっている南成瀬小学校へ移動しました。

雨のため予定していたプログラムのいくつかは体験できませんでしたが、AEDと三角巾の利用法を体験しました。AEDでは経験のあるグループホームの利用者さんが消防署員や消防団の方の指導を受けながら操作をして、

大いに褒められて得意そうでした。

この防災訓練は毎年開催されて参加していますが、今年も南成瀬小学校と合同ということで、児童・保護者の方も参加しており例年とは少し違う雰囲気の中、体験の会場はごも満員状態でした。



つるかわ学園を
支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこつした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一〇年額三千元ですが、ひとり何回か入っていたくださることを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会してくださる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一七七一九四〇二九

加入者

社会福祉法人 つるかわ学園

つるかわ学園
ホームページ

日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!

HP: tsurukawa-gakuen.com

